

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202460		
法人名	医療法人社団 平世会		
事業所名	グループホームひろた ユニットA(2階)		
所在地	〒859-3223 長崎県佐世保市広田1丁目4番7号		
自己評価作成日	平成21年11月16日	評価結果市町村受理日	平成22年2月2日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当たり前の生活を大切に、入居者様一人ひとりと日々関わりを持ち、共に過ごせることに心から感謝をしています。安全に生活を送って頂けるよう手助けをしながら、入居者様とスタッフ、そしてご家族様も一緒になって、ゆっくりと一歩ずつ先に進めるように取り組んで参ります。『感謝の気持ちを忘れずに やさしい手と確かな手で共に歩みます』これが私たちの理念です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1F
訪問調査日	平成21年12月3日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院が母体であることから、他病院とも医師を介してのスムーズな連携ができており、ご入居者・ご家族が健康面など安心して暮らせる体制となっている。運営推進会議のメンバーには率直な意見を言っていただけの方を選出され、いろいろな視点から頂戴する意見に管理者は感謝され、よりよいホームを作っていくことに尽力されている。理念の再確認においても、職員が行なってきたことの振り返りと自信につながり、チームをより一層大事に考える本当の意味での情報の共有と職員の更なる成長につながった感がある。また、個別の外出が少ないわけではないが、職員は“外出支援を更に充実させたい”とご入居者本意のケアにとっても意欲的である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「感謝の気持ちを忘れずにやさしい手と確かな手で共に歩みます」を理念に掲げ、ホームの入口の目に付き易い場所に掲示している。職員はその意味を理解し、日々実践している。	職員の研修参加をきっかけに全職員で理念について再度考え、自分達が入居者と介護という名で関わって、入居者だけでなく職員間にも言えることであることに気付かされた。理念が自分達が進むべき道として意識が変わり、理念に沿った支援を日々実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々や近隣のスーパーにおいても気軽に挨拶を交わせる馴染みの関係作りができています。法人全体の夏祭りは地域の方々を招く恒例行事として定着してきた。ボランティアや学生の実習等も積極的に受け入れている。	地域で介護教室を毎年開かれ、地域の中学校2校が実習に来られており、卒業後に遊びに来られることもある。老人会も2・3の町内の老人会の方と交流されている。また、ホームの毎月の便りを、家族の了解を得た上で近隣に配布し、地域住民の“認知症の理解”に役立っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行の広報誌を近隣の店等へも配布している。また管理者が兼務している併設の支援センターにおいて、自治会や老人会等に出向いて情報を発信するなど、事業所の機能を地域に還元する活動を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回サービスの実施状況等を細かく伝え、その中で委員の皆様から助言等を頂きサービスの質向上に反映している。	3ヶ月毎に開催され、入居者家族よりいろいろな意見や疑問等を頂き、業務改善や質の向上につなげられている。入居者は、本人たちの希望により運営推進会議への参加はされていないが、事前に要望等を聞き入居者の意見・要望等も併せて検討されている。	身体的拘束には言葉や音による拘束がある事を一般の方に啓蒙するとともに、職員の理解が統一できるような会議の更なる活用に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が窓口となってグループホーム連絡協議会への参加や行政担当者との連絡等を行い協力関係を築いている。	管理者が、市の担当者とホーム以外の用事も合わせて毎週連絡を取り合っており、情報の共有もできているなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は出入り口関係は全て開錠し、職員側から死角になる部分は入居者と家族に同意を得た上で、センサーや鏡を配置して安全面を考慮した環境作りが心にかけている。	夜間の防犯上の施錠以外は常に開放されているが、スピーチロックなど身体以外の拘束について職員の習熟度で理解度にバラつきがあり、研修を検討されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に出席した職員の資料や報告書を回覧し、各自が学ぶ機会を持ちながら全職員で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や講演会に参加し知識を深め、その報告書を併設施設も含めて全職員に回覧をして理解を図っている。現在対象となる方がいないため知識としては十分でない点もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には管理者や主任が窓口となり時間をかけて説明を行い理解を図っている。また、改定時には事前文書等の連絡を通して周知を図り、直接利用者及び家族に説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を内容によっては併設事業所とも共有し、職員会議や運営推進会議で改善に向けた具体策を講じ、速やかに実践していくように心がけている。	運営推進会議の家族代表は意見を言って下さる方を選出され、意見・要望・気付きを出していただき、管理者はじめ全職員で対応策を検討し、入居者にとってより良いホームとなるよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や全体会議に出席してもらい、意見等を聞いてもらっている。また普段のやり取りの中でも意見交換が行われており、必要な案件は管理者に伝え、その経過や結果もタイムリーに現場へ示されている。	職員が意見などを言いやすい環境を作られており、スタッフ会議・全体会議などの場で職員が発言されている。また、疑問なども主任に申し出、その場で解決が難しい場合は管理者へ申し出るという体制をとられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員が家庭に支障がないように勤務の調整等を考慮しながら就業環境の整備に取り組まれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を可能な範囲で積極的に促してもらい各自が参加できている。法人内での勉強会では職員による発表の機会を与えてもらうなど各自のレベルアップにつながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ブロック会議や外部研修等を通じて同業者との情報交換を重ね、事業所の質向上に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や見学などで、現在おかれている状況、そして思いや不安、意向等について本人の言葉や表情、周囲の状況等から理解把握をしていき、話す機会を持つ毎に徐々に安心の関係作りができるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経過や現在の状況等に関する思いなどをゆっくりと聞きながら、家族が当事業所に何を求めているのかを事前に確認するよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から相談内容を確認した上で現状を少しでも改善させるための具体策を提案している。その際状況に応じて併設施設や他事業所へ協力をお願いするなど柔軟な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年培ってこられた知識や技術を生活のそれぞれの場面の中で活かせるように、常に感謝の念を持ち、協働を意識した対応を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者が安定した生活を維持してゆくために、家族が来訪された際や電話連絡、その他毎月発行の広報誌を通して、本人の状況を常に共有し共に支え合う関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた併設のデイケアに出向き、その利用者同士の継続した交流がたもたれている。また周辺の馴染みの場所への外出の支援も行っている。	家族行事にも参加され、墓参りなども行われている。以前から利用されていた美容院に行かれたり、ホームに来ていただいてマッサージを受けたり化粧品を持ってきて頂いたりしている。また、毎月の支払いは振込みではなく持参という形をとられ、家族と毎月会えるような支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が互いに支え合えるような支援に努めている	入居者の個性や役割を生活の場面毎にそれぞれが発揮しやすいように配慮をしている。必要に応じて職員が介入し互いの意思疎通がスムーズにいくように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も次の支援先までのフォロー体制を整え、家族の同意を得た上で必要に応じて情報提供を行い、常に他の関係機関と連携をとりながら支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と関わりながらその思いを推し測ったり、ケアプラン作成にあたり、アセスメントを通して情報を共有しながら、可能な限り本人の意向が生活に反映できるように支援している。	職員の担当制をとられており、日々のかかわりの中からご利用者の思いを汲み取られている。表現する事が困難な方は、本人の様子・表情・身体状況等を見て思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査で家族や本人から直接話を聞いたり、関係機関からの情報等を基に、これまでの生活の様子を把握し、入居後も本人や家族の意向等を確認しながら生活しやすい環境作りを心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	業務日誌に一人ひとりの生活の様子や注意事項等を記入し、申し送りの際に職員間で確認徹底を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス前に事前検討用紙を用いて各職員の意見を記入させる一方、本人と家族の意向等を事前確認をした上でカンファレンスを実施し、個々の現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンス前に担当職員が全職員へ、用意した検討項目を専用紙に気づきや意見を書いてもらい、その意見を基に計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人記録、サービス提供書等、個別に記録を行い、一人一人の状態や様子がわかり易いように整理され、職員間でも情報の共有ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者の声に耳を傾けながら、家族又は職員の意見を取り入れたり、必要に応じて併設施設とも連携しながら、対応が画一的にならぬよう柔軟に関わっていくよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの馴染みの関係を大切にしながら、地域の学校からの職場体験やボランティア、又は実習生などの受入れも積極的に行い、その交流を通して入居者の生活面にも良い影響を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と医療連携の当院と常に連携をとりながら安心の医療の提供に心がけている。受診時家族の同伴が無理な場合は職員が対応したり、状況により家族と同行して状態の報告をしている。	契約時、家族には“以前からのかかりつけ医で受診していただいても構わない”事を説明しているが、“体調に変化がある場合などに、直ぐ見て頂けるから”家族の希望により変更されている。専門医の受診が必要な際は紹介をされ、受診結果の報告は、母体病院の院長が受診医師から直接話を聞き、家族に説明されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携医院の看護師との間で、問診表・申し送りノートを通して日々情報を共有し入居者の健康状態を把握している。また3Fユニットに1名の看護師が在籍する他、併設事業所の計7名の看護師との協力も得られる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は医療連携医院の医師と入院先の医師との連携の傍ら、本人の現状や経過等を入院先へ出向いて確認し、家族の意向も踏まえながらいつでも退院の受入れが可能な体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自施設の機能を活かしながら可能な限り支援を行っていくが、状況により困難が予想される場合は主治医又は医療連携の医師の指示を仰ぎながら、家族とも十分協議した上で方針を決めている。	看取りを行う方針で、入居時に家族に説明されている。現在“看取りの指針”等がなく、ホームでの看取りが困難な状況など細部の取決めを記載した指針の作成を計画中である。職員も“職員間で情報の共有を行っている”ので、看取りを行うことに不安は無い”と最期の時まで入居者に寄り添う支援に意欲的である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自施設の看護師の指導の下、応急手当や初期の対応についての方法を学び、会議等を通して全職員が理解をし、実践できるよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月グループホーム内で訓練を行い、その中で避難までの手順やシミュレーションを繰り返し意識付けを図っている。また年2回、法人全体で総合訓練を行っているが、まだ自然災害を想定した訓練は行っていない。	火災の規模や状況を考えて避難場所を2ヶ所設定し、避難訓練等を行われている。ホーム隣の消防署・自治会長・老人会役員にも非常時の協力依頼を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格、本人の意思を尊重しながら、状況に応じて適切でわかり易い声かけをするよう心がけている。一人ひとりに敬意を払い誇りやプライバシーを大切にされた対応に努めている。	失禁などの失敗時には“お茶をこぼされたから”と周囲への配慮や、耳が遠い方などには筆談やジェスチャーでトイレに行く事を伝えるなど、本人の誇りを損ねないような対応を心掛けた支援をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の望む暮らしを可能な限り実現できるよう、日頃から信頼関係の構築に努め、何気ない会話や本人の表情等にも配慮しながら、さり気ない声かけで自己を促すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合ではなく、一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけているが、個別かつタイムリーに希望に沿えているとは言えないかもしれない。今後も職員一丸となってゆとりある支援を目指して頑張っていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の訪問理容・美容には、毎回希望者が楽しみに利用されている。季節感のある服と一緒に選んだり、鏡を意識した関わりを持ちながら興味を引き出したりと、普段から身だしなみを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好や希望を取り入れた献立を基に、食事前は台拭きやお盆拭き、そして配膳から下膳まで、個々の役割や能力に応じて参加してもらい共同で食を楽しんでいる。	入居者に食べたいメニューなどを聞かれ、買物や下ごしらえ、配膳など、入居者が出来ることで食事の一連の作業に参加して頂いている。また、ミキサー食の方には、“春菊ですよ”“お魚ですよ”と“何を食べているのか”話しかけながら介助をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当院の栄養士のアドバイスも受けながらバランスのとれた献立作りと食事の提供に努めている。食事・水分の摂取量は生活チェック表を基に個別に日々把握しており、形態や量も個々の状態や希望に沿って提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きやうがいをを行い口腔内の清潔を保っている。個々の能力に応じて準備又は介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りオムツ等を使用しない方向で排泄の支援を行っている。日々の生活チェック表で排泄パターンを把握し、誘導が必要な方にはサインを見逃さず目配りをしながら、さり気なくトイレでの排泄に導くようにしている。	入院されたり病院からの入居となった方は、オムツをつけられて入居されるが、排泄パターンを把握しトイレでの排泄につなげ、排泄の自立へと向けた支援をなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分の摂取量の把握と、食物繊維の多い食材を使った食事の提供に心がけている。また便秘解消と運動不足を目的に始めた朝のテレビ体操では、入居者全員が集まって身体を動かすことが日課となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしており、本人の思いや希望、そしてタイミング等を理解するように心がけ、楽しんで入ってもらえるように職員間で情報を共有しながら取り組んでいる。	以前は午前中の中の入浴としていたが、現在は流動的に行っている。職員の体制により入浴できない方がいたが、入浴専用の申し送り簿の作成や連絡を密にすることにより、最低3日に1回は入浴して頂けるようになった。シャンプー・リンス・ボディソープも個人の好みのものを使って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の生活リズムに合わせて、自室以外でも好きな場所でそれぞれが午睡や休養をとられている。夜間寝付けない方には寄り添い話を聞いたり、温かいお茶の提供、足浴など、常に安心感を抱けるような対応を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬紙一覧表で全職員が内容を把握できるようにしている。処方に変更があった際は業務日誌に記載し、申し送りで職員間で確認の上、症状の変化等の観察に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や職歴や本人と家族からの情報も得ながら、普段の生活の中で本人が楽しそうな表情や集中して作業に取り組んでいる姿勢等を職員がキャッチし、日常的に自然に発揮できるような場面作りを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い時は、可能な範囲で戸外へ散歩やドライブに出かけている。家族や地域の方々の協力もあり、本人の希望する時は施設から近い自宅まで職員同伴で歩いて帰り、しばらく過ごされた後に施設に笑顔で戻られる方もいる。	併設のデイサービスやデイケアのドライブに便乗させて頂いたり、ホームでの外出も多い。入居者の体調や天気、職員の勤務体制等を勘案しての個別対応を行っている。ホームの近隣にはお店も多く、食材の買出しなども入居者も同行される。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理がある程度可能な方は小額ではあるが本人が所持されている。基本的に買物の際は本人の希望や能力に応じてお金を使えるように、予め家族と相談の上で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話で本人と話をされる際は状況に応じて職員が仲介に入って会話を楽しんでもらうこともある。希望があればいつでも電話をかけることはできるが、時には本人の様子を伺いながら家族への電話を促す場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内の照明はやわらかい色を使用。トイレや浴室には職員と入居者が作った案内板が掲げられ、壁には習字や貼り絵が飾られ季節感を演出している。室温管理は温度計と湿度計を目安にしながらも、入居者に随時確認しながら調節を行っている。	2階はピンク、3階は緑を基調とした色合いになっており、各階で入居者の心身の状況等に合わせたフロア作りをされている。入居者は、自分の定位置でテレビや他の入居者との会話を楽しまれ、ゆったりとした時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビコーナー、畳の間、食卓、エレベーターホール、バルコニーと、自室以外の共有の場所で各自が自由にくつろぎ過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスやテレビ、仏壇、愛用品などを自室に揃えて、居心地の良い空間作りを工夫している。	ある入居者の居室には“自分で果物やお菓子を管理をしたい”とホワイトボードが掛けられ、購入日や賞味期限などを記入され、職員に手伝っていただきながら管理されている。その他、家族の写真や使い慣れた品などを持ってもらえ、本人が過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険を回避するための対策が過剰になりすぎて逆に生活感が乏しい環境とならぬよう、入居者それぞれの心身状態を把握した上で、生活のスタイルを尊重した個別の環境作りを心がけている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202460		
法人名	医療法人社団 平世会		
事業所名	グループホームひろた ユニットB(3階)		
所在地	長崎県佐世保市広田1丁目4番7号		
自己評価作成日	平成21年11月16日	評価結果市町村受理日	平成22年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1F		
訪問調査日	平成21年12月3日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域住民の方々の協力やご家族の協力があってサービスが提供できることに感謝し、共に支え合いながら毎朝・夕の申し送り時に理念を復唱し、その思いを胸に刻んで日々実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の店へ買物に出かけたり、毎月発行している広報誌の配布や地域ぐるみの行事に参加したり、介護教室の開催、町内清掃の参加など、普段から地域との関係を意識した活動に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に行う介護教室や出張相談を通して地域の方々に認知症の理解を深めてもらう良い機会となっている。また、中学生の体験学習の他、研修や実習の受入も積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の現況や施設の事業活動報告の他に、課題として取り上げた事項に対しての取組みや経過・結果等を報告しながら、委員の皆様から意見を頂いたり共に検証して頂きながら、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を中心に日頃より市との連絡を密にすることで協力関係を築けている。また、運営推進会議の委員のメンバーとして市の保健師に毎回出席して頂き、そこでの助言等もケアサービスに反映させている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の主体性の大切さを踏まえた上で、本人の意思を尊重し、身体拘束をしない正しい理解の下で安全性を確保できるよう全職員で取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に出席した職員の資料や報告書を回覧し、各自が学ぶ機会を持ち、全職員で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では家族の協力もあり該当者がいないため制度自体に対する認識や理解に乏しいのは否めない。今後も勉強会等で理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては利用者・家族に対して時間をかけて説明を行い理解を図っている。入院が長期化した場合や退居に関しても、当事業所で可能な範囲での対応を前提にした説明を行うなど、事前に十分納得して頂けるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や入居者の要望は、フロア内に留めることなく、内容によっては併設事業所とも情報を共有しながら速やかに職員会議や運営推進会議の中で改善策を協議、実践し、サービスに反映させる努力をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は毎月の全体会議に代表者と管理者の出席の下で聞いてもらっている。また、普段の職員とのやり取りの中で意見交換が行われており、必要な案件は適宜管理者に伝え、その経過や結果もタイムリーに現場に示されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	フロア会議や全体会議に出席して職員の声に耳を傾けてくれる。勤務の調整など側面的に支えてもらいながら、各自の向上心をバックアップしてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加を可能な範囲で積極的に促してもらい各自が参加できている。法人内での勉強会では職員による発表の場を設けたりと、年間の研修計画に沿って職員のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ブロック会議や研修等を通じて同業者との情報交換を行うなどのネットワーク作りにより、事業所のサービスの質の向上のために互いに協力して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や見学などで、現在おかれている状況、そして思いや不安、意向等について本人の言葉や表情、周囲の状況等から理解把握をしていき、話す機会を持つ毎に徐々に安心の関係作りができるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経過や現在の状況等に関する思いなどをゆっくりと聞きながら、家族が当事業所に何を求めているのかを事前に確認するよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から相談の内容を確認した上で、現状を少しでも改善できるよう具体的支援策を提案している。その際状況に応じて併設施設や他事業所へ協力をお願いするなどの柔軟で迅速な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年培ってこられた知識や技術を、生活のそれぞれの場面の中で活かせる様に、感謝の念を持って、協働を意識した対応を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力や理解を得られ易いように、来訪の際や電話連絡、また毎月発行の広報誌を通して入居者の状況を判りやすく伝達するように心がけ、共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイケアを入居前に利用していた方は、そこへ自由に出向き、利用者同士との継続した交流関係が保たれている。馴染みの場所への外出の支援を行う他、外部からも親しい友人が足を運んでくれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の和みの空間をととも大切にしている。互いのコミュニケーションが困難な場合は職員の介入によって円滑にできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地元からの入居者が多く、契約終了後も地域で顔を合わす機会も多い。近況報告を交わしたり、相談に応じたり、また、他施設への入所や入院された場合も面会に足を運ぶなど、その後の関係性も大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と関わりながらその思いを推し測ったり、ケアプラン作成にあたり、アセスメントを通して情報を共有しながら、可能な限り本人の意向が生活に反映できるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに関する事なので、その目的をきちんと伝えた上で本人や家族、又はケアマネジャーからの情報や本人との会話などから、これまでの暮らしの様子を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や最新のアセスメントを基に一人一人の生活スタイルや健康状態、変化や傾向を把握し、毎日の申し送り等でその日の状態や注意事項を職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスに入る前に、事前検討用紙を用いて全職員の意見やアイデアを収集し、家族の意向も踏まえた上で、本人がより快適に過ごせるように介護計画を作成し、1ヶ月毎にモニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人記録、サービス提供書等、個別に記録を行い、一人ひとりの状態や様子がわかり易いように整理され、職員間でも情報の共有ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自施設のみで抱えることがないように、常に併設施設や他の関係機関とも連携を取りながら柔軟な対応を行うように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との馴染みの関係作りをいつも願いながら、ボランティアや学生の職場体験、実習等を積極的に受入れ、その交流を通して互いに理解を深めるきっかけとなり、入居者の生活面にも良い影響を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と医療連携の当院と常に連携をとりながら安心の医療の提供に心がけている。受診時家族の同伴が無理な場合は職員が対応したり、状況により家族と同行して状態の報告をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本的に本人・家族の希望するかかりつけ医となっているが、入居者の心身状態に変化があった時には、医療連携医へ連絡して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、本人の現状や経過等を入院先の医療機関に足を運び直接確認したり、家族からの情報も得ながら、いつでも退院の受入れができるように、日々入院中の状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自施設の機能を活かしながら可能な限り支援を行っていくが、状況により困難が予想される場合は主治医又は医療連携の医師の指示を仰ぎながら、家族とも十分協議した上で方針を決めていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自施設の看護師の指導の下、応急手当や初期の対応についての方法を学び、会議等を通して全職員が理解をし、実践できるよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設単独で毎月消防訓練を行い、職員の防災意識の向上に努めている。また併設施設と合同で行う消防(総合)訓練を年2回実施しているが、災害を想定した訓練はまだ実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に敬意を払い、誇りやプライバシーを大切に声かけや対応に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中でも職員の目線で判断することなく、利用者自身が決定できるようにさり気ない声かけや対応を心がけている。意思疎通ができない方でも一つひとつの行動や表情などをくみとり声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の全ての希望に沿った支援ができているとは言えないかもしれないが、全職員がこのことに向けて、日々考え努力をしている。ゆとりある支援を目指して今後も頑張っていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれにこだわりや好みがあり、職員はそれを把握し生活の中でさり気なく個性が発揮できるように支援している。特別な行事がある時もそれに応じた着こなしのお手伝いをするよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週単位で作る献立表は入居者の好みや希望を聴き取り反映させている。調理では可能な範囲で入居者に協力してもらい出来上がった料理は同じテーブルで職員も一緒に頂くなど、食を囲んだ和やかな光景が日常的に行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量に関しては、生活チェック表に提供毎に記入を行い、入居者一人ひとりがどの程度摂取できているのか把握している。又、栄養バランスについては、母体の医院の栄養士にアドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力や状態に応じて、口腔ケアの準備、介助を行っている。介助が必要な方に対しては、本人の意思を確認しながらガーゼ等を用いて残渣物を除去し清潔保持に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りオムツ等を使用せず、自己にて気持ちよく排泄できるよう一人一人の状況に応じた支援を行っている。個々の排泄パターンの把握を基に自尊心に配慮したさり気ない支援を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活チェック表を基に個々の排便パターンを把握しながら、毎日の食事に寒天ゼリーを取り入れたり、毎朝の体操で身体を動かすなど、普段から便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしており、本人の思い、希望、そしてタイミング等を理解するよう心がけ、楽しんで入ってもらえるように、職員間で情報を共有しながら取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時には温かいお茶を提供したり、しばらく一緒に過ごすなどして、安心感を持って頂けるよう心がけている。又、寒い時には足浴で入床を促すこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別薬紙の一覧表を作成し、全職員が薬の内容を把握できるようにしている。また、薬の変更や新しい処方がある場合は、状態の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の活き活きとした表情や楽しそうな姿が観られた場面を見逃さず、そこから無理のないように生活に張りや楽しみを増やせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は数人ずつでも徒歩や車椅子で外へ出かけている。又、季節毎に花見などのドライブにも出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使用しなくても所持していることで安心したり、買物の際に自分でお金の支払いをしたりと、社会とのつながりを持ちながらお金を使える喜びや金銭を意識した関わりを大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話はいつでも使用できるようにしており、本人の様子を観ながら職員が電話を促すこともある。年賀状には毎年一筆入れてもらったり、宛名を書いてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は明るく、BGMが流れる中、大きな窓辺からは木々の成長を季節の移り変わりと共に観ることができる。壁には入居者と職員が共同制作した貼り絵などが掲示され季節感が感じられるなど、心地よい空間作りを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	色も形状も異なるソファがフロアに設置しており、各自の好みに合わせて寛ぐことができ、エレベーターホールにはベンチとテーブルが置かれ、外の景色を観ながら過ごせる空間がある。各自が自由にそれぞれの居場所を活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはその方の愛用品があり、趣味の作品や家族の写真を飾るなど、入居者一人一人の個性が感じられる。安らぎのある空間として居心地の良い居室環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リスクを伴うこともあるかもしれないが、全てを取り上げるのではなく本人が自己決定でき、その時点でスタッフが視野を広げて配慮することにより、安全な環境を作り出せる様、意識しながら支援している。		